静岡大学　情報学部

情報社会学科

高校生へのニューズレター

第 1 号（2012.07）

情報社会学科は文系入試！

この号の内容

1 情報社会学科は文系入試！

2 大島律子研究室紹介
（学習科学・協調学習支援）

3 高口鉄平研究室紹介
（経済学・経営戦略）

4 情報学と博物館とダンス
（田中千晶）

前期日程試験

・センター試験：4 教科 5 科目（国，地歴・公民から 1，数，外国語）

・個別試験：外国語，小論文

・特徴：外国語の配分が 450/1100

外国語＋国語＋小論文の配分が 800/1100

後期日程試験

・センター試験：5 教科 6 科目（国，地歴・公民から 1，理，数，外国語）

・個別試験：外国語

・特徴：外国語の配分が 600/1200

外国語＋国語の配分が 800/1200

＊いずれも、2013(平成 25)年度入試です。また、推薦入試・AO 入試もあります。

浜松キャンパスで
文系の学問を学ぼう

（山田文康研究室（データ解析））

"「どうやったら上手くいくのか」を自分なりに考えられるようになって欲しい"

大島律子研究室（学習科学・協調学習支援）

学習場面でロボットがどう役立つかも大事なテーマ

Q：大島律子先生はどのような研究をしているのですか。

A：人の学びの質を高める方法を研究しています。私たちは学校や日常生活で、そして社会に出ても学び続けますから、これは重要なテーマです。学びのよしあしを大きく左右する道具・方法・空間などの条件について、研究を進めています。質の高い学習法は、高校生の皆さんも切実な問題でしょう。

Q：その研究は情報社会でどのように活かされていますか。

A：学校や職場での学びを効率良くするために、役に立っています。「学ぶ力」は、大学生が専門的知識を学習する時だけでなく、社会人として仕事をする上でも不可欠であるため、世界的に注目されています。

Q：大学に入るまでに高校生にやってもらいたいことは？

A：「他者と一緒に物事に取り組み、達成しようとすること」です。大学に入るとグループワークが増えます。しかし、誰でもはじめから他者と協力して物事を上手に進められるわけではありません。

　そこで、早いうちからこのような活動を多く経験し、「どうやったら上手くいくのか」を自分なりに考えられるようになって欲しいと思います。

Q：ゼミの雰囲気は？

A：大人数でにぎやかな雰囲気です。みな仲が良く、先輩たちは後輩の面倒をよく見てくれるところがセールスポイントです。

　互いに交流が深まり、異なる考え方や興味などにも触れ、より多くの視点から物事を見ることが出来るようになるのも特徴です。

" 私たちがより便利なサービスを受けられるようになるために重要な研究を "

高口（こうぐち）鉄平研究室（経済学・経営戦略）

Q：高口先生はどのような研究をしているのですか。

A：私は、情報通信産業を対象に、経済学・経営戦略といった観点から研究しています。情報通信産業とは、情報を生み出し、伝達し、提供する産業です。そこでの競争、有効な経営戦略、政府の役割、を研究しています。

景品のミニカーが持つ経営戦略の意味とは？

Q：その研究が情報社会でどのように活かされていますか。

A：現在、私たちは、多様な情報通信サービスを利用できます。これは、企業や政府が環境を整備し、企業が競争により便利なサービスを生み出した結果です。企業の競争や政府の役割を考えることは、私たちがより便利なサービスを受けられるようになるために重要なことです。

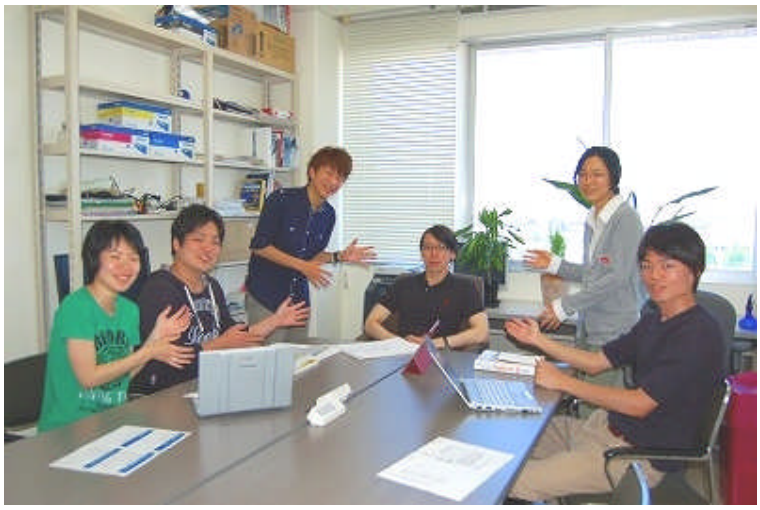
Q：いま、高口ゼミで学生がしている研究は何ですか。

A：それぞれ自由に関心のあるテーマを追いかけています。例えば「携帯電話で電子マネーが使える満足度」「インターネットの世界で、広告仲介業は生き残れるか」といったテーマで、いずれも「経済やビジネスに関係するテーマ」という点では共通しています。

Q：高校生にやってもらいたいことは？

A：抽象的な希望なのですが、自分の選択の結果を自分で受け止めるという、「筋を通す」ことを身につけてほしいと思います。この先、勉強、生活、将来などについて、自由に選択「しなければならない」機会が増えます。

　選択のとき、周囲の助言を参考にすることもあると思います。ですが、いずれにしても、選択した結果は自分が受け止めなければなりません。



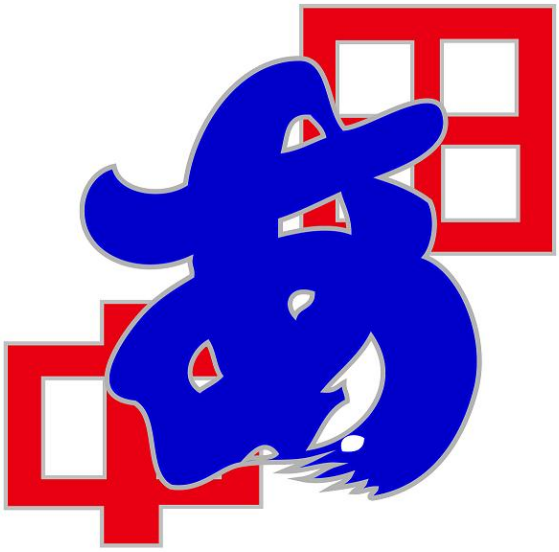
情報学と博物館とダンス ―― 私の世界を広げてくれたもの

田中 千晶　（情報社会学科　４年）

情報社会学科では、博物館の学芸員資格を取得することができます。日本美術史はもちろん、博物館経営学や民俗学、歴史的仮名遣いなどの学習が、私の世界を広げてくれました。

３年時の博物館実習では、浜松市立博物館で１０日間実習を行いました。実習で学んだことは多く、とりわけ、ひな人形の展示の際には、人形にも地域差・時代差があることに興味を持ちました。

浜松周辺のひな人形は名古屋系のものが中心で、その特徴は極めて華やかなことです。人形の時代差も重要です。時代によって人形の配置も異なるので、製作年代の確認作業をおろそかには出来ません。学芸員の授業・実習で得たことを就職してからも様々な場面で役立てて、地域に貢献をしていきたいと思います。



（このデザインから何が読めますか）

鰻陀羅（まんだら）というダンスサークルも４年間やりとげました。衣装班の班長を担当しました。凧揚げで有名な浜松の土地柄を意識して、凧の絵柄を一つ一つ手作りで衣装の背中にいれました。絵柄を自分でパソコンを使ってデザインし、印刷した後、衣装にアイロンプリントで転写、という作業です。デザインから作成まで、パソコンを活用できました。

ダンスの途中の衣装替えも工夫しました。凧揚げの効果音を合図に、最初の地味な衣装から華やかな衣装に一瞬で替えて、衣装とダンスを一体化させた演出をしました。これで、ダンスをより美しく見せることができたと思います。

静岡大学情報学部　広報委員会
〒432-8011　静岡県浜松市中区城北３－５－１
電話番号:053-478-1510　FAX 番号:053-478-1513
電子メール: pr-gakumu@inf.shizuoka.ac.jp